

問題発見型／解決型学習(FBL/PBL) テーマ提案 (学生募集内容)

テーマ名称	造形・モデリング実習
実施責任者	工学研究科機械理工学専攻教授 富田直秀 デザイン学ユニット 未定
実施協力者	京都市立芸術大学大学院美術研究科教授 中ハシクシゲ 京都市立芸術大学大学院美術研究科教授 重松あゆみ 京都市立芸術大学大学院美術研究科教授 辰巳明久 京都市立芸術大学大学院美術研究科講師 小島徳朗 (公認会計士) 山口美賀 (NPO) 日本産業モデル造形振興会 株式会社トウールズインターナショナル 京都大学工学研究科 教務補佐(日本画家) 田中桃子
テーマの背景	ヒトに関わる技術では、仕様に書き下された要求機能を目的として設計するだけではなく、文字に表すことの難しい well-being にかかわる情報を直接に感じ取って形に表現する能力が求められている。本授業ではまず人体を「みる」ことの練習を行い、さらに体験装具等にて障害・高齢・妊娠等の状況を体験し、その自由と不自由を解決する具体的な造形として高齢者用車両のデザインをモデリング用粘土を用いて行う。また、可能であれば、表現された造形の技術要素としての抽出と書き出しも試みる。
実習の概要	本授業における実習は1) 人体観察(造形)、2) 高齢者体験、及び、3) 高齢者用車両のデザイン、モデリング に分けられる。 まず、モデリング用粘土による造形と車体モデリングの基礎、注意事項、インクルーシブデザインなどに関するミニ講義を受講し、1日目は人体モデルを「みる」ことの練習を行う。同時に人体造形実習(高さ 30cm 以内程度の造形を想定している)を行うが、モデリングクレイを用いた人体造形の目的は「みる」ことであり、人体造形の完成は課題とはしない。 次に2) 高齢者体験、及び、3) 高齢者用車両のデザインとモデリングを、各自の発想に従って適宜開始するが、進行途中で専門家による講評及び講評会を適宜行う。また、授業の最後に、それぞれの作品の前で体験と制作から得た気づき、解決アイデアなどに関して発表を行う。 モデリング用クレイと簡単なヘラ等は用意するが、汚れても良い服装、ぼろ布、着替え。上履き、作品持ち帰り用の容器、その他特殊なヘラなどは各自持参のこと。また、制作作品は各自持ち帰ること。
実施計画、実施場所	交渉中 詳細は実施計画を参照。
履修条件	造形に関する基礎技能は必要としない。 体験装具装着のまま外出しないこと。 人体モデルの尊厳を尊重すること(ポーズ中の出入り禁止、写真などの撮影禁止、その他)。
募集人数	3名以上、20名以下
募集締切	5月2日(金)
応募資格	京都大学の学部生、大学院生、他大学の学部生、大学院生、社会人

	応募多数の場合には、デザイン学履修生を優先する。
応募方法	以下の項目を記載したメールを送付。 (デザイン学履修生はガイダンスでの指示に従うこと) To: mori.momoko.8n@kyoto-u.ac.jp CC: tomita.naohide.5c@kyoto-u.ac.jp, fblpbl-application@design.kyoto-u.ac.jp Subject: [FBL/PBL 参加申込] テーマ名称 本文: 氏名、所属組織、役職・学年、メールアドレス 背景知識・専門性、応募の動機、その他
履修者の決定	5月9日(金)までにメールで参加の可否を通知。
問題発見や解決に用いるデザイン理論やデザイン手法	インクルーシブデザイン(Inclusive design) 医療工学分野ブログ (http://tomitaken.seesaa.net/) 2013年07月27日「なぜ、医療にアート・デザインが必要なのか」参照)
理論や手法の学習方法	FBL (Field Based Learning) インクルーシブデザイン(Inclusive design)は、対話や観察から得た気づきをもとに開発を行うが、本 PBL ではそのもっとも基本的な姿勢である「みる」ことの実践を目的とする。実感から得られた気づきを高齢者用車両のデザインとしてモデリング造形に表現し、講評会にて各自の意図を説明する。また、可能であればデザイン要素の言葉への書き下しも試みる。
実習の公開方法	終了後 Web にて公開する
成績評価方法	講評会を実施。ただし、造形技術の優劣は成績に反映しない。
特記事項	•

実施計画

コマ	日程	場所	実施内容
1-12	5~8月 2日連続	京都市立芸術大学構 内(交渉中)	ミニ講義:「インクルーシブデザイン、「みる」ことの基本、造形の基礎、モデリング用クレイなどの扱い方、車のモデリングに関する基礎事項など。 モデリング用クレイと簡単なヘラは用意するが、汚れても良い服装、ぼろ布、着替え、上履き、作品持ち帰り用の容器、その他特殊なヘラなどは持参のこと。また、ポーズ中の出入りは禁止となるため、注意のこと。適宜講評及び講評会を行いながら制作を進める。
13-15	5~8月	京都市立芸術大学構 内(交渉中)	授業の最後に、それぞれの作品の前で体験と制作から得た気づき、解決アイデアに関して発表を行う。なお、今回の授業において人体造形は「みる」ための予備課題であり、高齢者用車両のデザインとモデリング造形を主たる課題とする。可能であればデザイン要素の言葉への書き下しも試みる。制作作品は各自持ち帰ること。

※KRP: デザインイノベーション拠点(京都リサーチパーク 9号館 5階)